

# がく じ 学 而

摂南大学図書館報

No.100 2019.3



## 西洋古版日本関係地図コレクション(本館貴重図書室所蔵)

新世界・太平洋図 シャトラン 1719年

シャトランの1719年刊行「地図帖」の第11図。大地図4枚を上下に分かつ。アメリカ大陸の新発見部に詳しく、また15世紀から17世紀までの大航海探検家や当時の大陸間の貿易航路も記されている。太平洋の西端に日本が描かれているが、18世紀初頭のヨーロッパ人が描く典型的な日本の姿である。

## CONTENTS

『学而』100号を祝う

～「真理はあなたがたを自由にする」から「真理がわれらを自由にする」へ～・・・2

学長 八木 紀一郎

学生の図書館利用を考える・・・3

図書館長 福島 徹

学生の卒業研究での考察:紙媒体の新聞や書籍は将来消滅するのか?・・・4

経済学部 教授 内田 勝巳

『人生を変える言葉の魅力とは!?』・・・6

外国語学部 准教授 吉村 征洋

図書館学生サポーター活動・ビブリオバトル・・・8

図書館利用統計・・・9

枚方分館ニュース・・・10

図書館利用者アンケート結果・・・12

教員が選ぶ推薦図書・・・14

サービスの紹介～スマート検索、eBook Library～・・・15

摂大文化大賞・編集後記・・・16

# 『学而』100号を祝う

## —「真理はあなたがたを自由にする」から「真理がわれらを自由にする」へ—

学長 八木 紀一郎

図書館報『学而』が100号を数えることになった。バックナンバーのすべてが図書館のホームページに掲載されている。のぞいてみると、これが思いのほか楽しい。本学を去られた先生のお顔やいまや重鎮の先生の若かり頃のお姿にお目にかかる。各号には、先生方が専門外の学生・読者のためにエスプリをこらして書かれた文章が掲載されている。学生諸君の意見や文化活動の成果も紹介されている。最近は装丁も立派になっている。本学で最も文化の香りがする刊行物かもしれない。『論語』からとられた「学而」という題辞も大学図書館報にふさわしい。今後ともぜひ続けていただきたい。

この機会に、戦後の日本で図書館の理念を代表したことは「真理がわれらを自由にする」について考えてみよう。このことばは現在でも国会図書館の東京本館ホールに初代館長金森徳次郎の筆跡で刻まれている。金森は戦後の憲法制定担当の国務大臣だった。国会図書館は、戦後に男女普通選挙による国会が成立した際に、国会の活動を資料の提供と調査・研究によって補佐する機関として設けられた。「真理がわれらを自由にする」ということばは、昭和23年2月に公布された国立国会図書館法の前文にも含まれている。このことばを前文に入れることを提唱したのは、当時参議院で図書館運営委員長をしていた歴史家の羽仁五郎である。羽仁は真理にもとづかず国民を欺瞞した戦争政策が国を誤らせたと考えていた。これは、保守・革新を問わず当時のコンセンサスであったと言ってよい。

それでは「真理」とはなんだろう。ここで多少、こみいった経緯に立ち入ることをお許し願いたい。羽仁はこのことばを戦前のドイツ留学時にみた大学の銘文からとったとしている。羽仁が見たのが西南ドイツのフライブルク大学の本館に刻まれた「真理はあなたがたを自由にする」(DIE WAHRHEIT WIRD EVCH FREI MACHEN)であることはほぼ確実である。この建物の入り口の両脇には、ホメロスとアリストテレスが坐っている。私も四十年以上前にフライブルクで学んだ際に、この入口からよく出入りした。さらに遡るとこの語は聖書の「ヨハネによる福

音書」から来ている。国会図書館はその古代ギリシア語の原文(H AΛΗΘΕΙΑ ΕΛΕΥΘΕΡΩΣΕΙ ΥΜΑΣ)も本館の壁に刻みつけている。どちらも「われらを」ではなく「あなたがたを」自由にすると言っていることに注意されたい。

厳格なキリスト教徒は、国会図書館でのこの聖句のあつかいに違和感を覚えるかもしれない。というのは、キリスト教徒にとって「真理」とはイエスのことばを信じることであり、「自由」とは「罪」や「死」から解放されることだからである。「あなたがた」とは信者の集団である。羽仁はキリスト教徒ではなく、ルネサンスと市民文化を称える民主主義者であった。羽仁の思い浮かべた自由は、殉教者の自由ではなく、ミケランジェロのダビデ像のような意思をもった市民の自立的自由であった。

おそらく、まだ若かった頃の羽仁は、教会ではなく大学にこのことばが掲げられていることに感動したのであろう。このことばが欧州の大学に来たとき、すでに「真理」と「自由」の観念は宗教的な信仰から脱していた、あるいは脱しかけていた。信仰ではなく、人間と世界の学(人文学と科学)が「真理」探究の道であるというのが、フマニストの考えである。欧州の大学の歴史は宗教との闘争の歴史であった。

戦後の日本は、羽仁とともにそれを無意識のうちに一歩先に進めたように思われる。「真理」も「自由」も、「あなたがた」に与えられるものではなく、「われら」が自分で得るものである。私は、この戦後の理念を大学人としていまでも大事に思うものである。



フライブルク大学の建物に刻まれたギリシアの精神  
(DIE WAHRHEIT WIRD EVCH FREI MACHEN)

# 学生の図書館利用を考える

図書館長 福島 徹

昨年の4月より図書館長を拝命することとなった。福田前館長との引継ぎの際、学生が本を読まないことの問題意識をお聞きした。ちょうどその1ヶ月程前に、全国大学生活協同組合連合会の「学生の消費生活に関する実態調査」の結果として、日本経済新聞や朝日新聞がそろって「大学生『読書時間ゼロ』半数超」と言ったタイトルで、「本離れ」が若い世代で進行していることを指摘した記事を思い起こした。1日の読書時間が「0」と答えた学生は53.1%で、この5年間で比較すると、18.6%も増えているという。

そこで改めて本学の図書館利用統計を調べてみたところ、確かにここ数年入館者数は漸減傾向であった。この間にラーニングコモンズなど学生にとって魅力的なスペースが整備されていることと合わせて考えると、残念な状況と言わざるを得ない。一方で、丁寧に変動の諸要因を整理しないとほっきりしたことは言えないが、貸出冊数の推移を見ると2017年度は前年度より増えているし、2015年度とほぼ同数となっている。先に述べた実態調査では読書する学生は数パーセント増であったとの結果から、本を読まない学生との二極化が進んでいるとの指摘もある。本学の入館者数と貸出冊数の推移の違いはこの指摘と同じ理由によるものか、入館者の減少はネットからの利用など図書館利用環境の変化にもよるのか、いまだ少し詳しい統計をとり、また調査をする必要がある。しかしいずれであっても、学生一人あたり貸出冊数を見ると、外国語学部と看護学部を除き他の5学部では年間2～3冊にとどまっており、学生に本を読むことを促す取り組みは、大学図書館における重要課題と言えよう。

館長2年目を迎えるにあたり、学生の図書館利用をどのように増やしていくか考えて見た。

まず第1に図書館利用サービスの充実があげられよう。今、学生はスマホでコミュニケーションをとり、さまざまな情報の入手を行っている。その環境において図書館の諸機能が利用できることが、学生の図書館利用を高めることになる。こうした機能の一部はすでに図書館ポータルサイトでサービスが行われているが、スマホやPCで資料を取り寄せ、また電子ジャーナルや書籍を読

むといった環境整備・充実が必要である。

第2には、学生の図書館利用を促す取り組みがあげられる。促す主体は図書館、友人等学生、教員が考えられる。図書館では企画展示や推薦図書などを実施しているが、ポータルサイトの充実やSNSの活用など学生の目に届く情報発信の工夫も考えていかなければいけない。学生では友人同士で、読んで面白かった本を勧めるといったことがまず考えられるが、図書館としては、企画イベント「ビブリオバトル」や「マイフェイバリットブックス」の運営サポートなどを行ってくれている図書館学生サポーターの活動をより広がりのあるものへと支援していきたい。そして先生方には、是非とも授業での学びを深めるための参考図書の紹介や読書を勧めたい図書の推薦など、折に触れ学生が図書館に足を運び、本を手に入る機会を与えて頂きたい。

第3には、図書・資料の充実があげられる。学生が読みたい本、読ませたい本が図書館で利用できることがまず必要であり、そのためには選書が重要となる。現在図書館が行っている選書フェアは一階ロビーに場所を移して好評であったが、他大学で行われている選書ツアーなども検討の余地がありそうである。一方、読ませたい本、学修を助ける本の選書はそれぞれの専門分野の先生方には是非お願いしたいと考えている。今回、これまで先生方個々人として推薦頂いていた方式に加えて、学部ごとに推薦図書の選書をお願いすることとさせていただいた。大学図書館の蔵書構成は、学部・大学院と連携したものでなければならなかったと考えたからである。

以上、思いつくままに書き出した内容は目新しいアイデアはないが、こうした取り組みを地道にひとつ一つしっかりと行っていくことが、本を読む学生、学生が読む本を増やす結果につながると考える。「建学の精神に則り、前人の育成を第一義として、人間力・実践力・統合力を養い、自らが課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人を育成する」という本学の教育理念を想起する時、図書館の担う役割は大きく、そのひとつとして学生が読む本を増やす取り組みの重要性を重く受け止めている。

# 学生の卒業研究での考察

## －紙媒体の新聞や書籍は将来消滅するのか？－

経済学部 教授 内田 勝巳

### 日本の紙媒体の新聞や書籍の現状

読書と言えば、本を開いて紙の頁を括りながら文章を読む行為をイメージするが、インターネットの普及に伴う電子書籍の登場により、必ずしもそのような行為を必要としなくなった。昨年度、新聞の電子化(A君)と書籍の電子化(B君)をそれぞれ卒業研究のテーマに掲げた二人の学生の論文指導を行ったが、日本の新聞の販売部数は1997年をピークに毎年減少し、書籍・雑誌の推定販売金額も1996年以降、毎年減少していることがわかった。

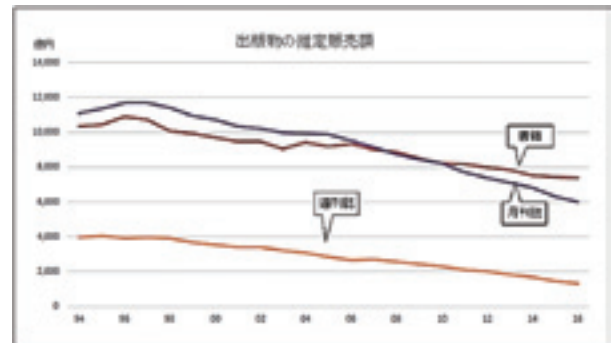
しかし一方で、世界新聞協会(WAN-IFRA)によれば2016年の世界の新聞の発行部数ランキング上位20紙のうち5紙が日本の新聞によって占められており、また、1位は読売新聞、2位は朝日新聞となっている(他はインド7紙、中国4紙、米国3紙、ドイツ1紙)。

|    | Title                   | Country                  | Circulation (mnc) |
|----|-------------------------|--------------------------|-------------------|
| 1  | The Yomiuri Shinbun     | Japan                    | 9101              |
| 2  | The Asahi Shinbun       | Japan                    | 6622              |
| 3  | USA Today               | United States of America | 4129              |
| 4  | Dainik Bhaskar          | India                    | 3818              |
| 5  | Dainik Jagran           | India                    | 3308              |
| 6  | The Mainichi Newspapers | Japan                    | 3166              |
| 7  | Caobao Xiaoxi           | China                    | 3073              |
| 8  | Amar Ujala              | India                    | 2935              |
| 9  | The Times of India      | India                    | 2836              |
| 10 | The Nikkei              | Japan                    | 2729              |
| 11 | People's Daily          | China                    | 2603              |
| 12 | The Chunichi Shinbun    | Japan                    | 2452              |
| 13 | Hindustan               | India                    | 2410              |
| 14 | Malaysia Manorama       | India                    | 2343              |
| 15 | The Wall Street Journal | United States of America | 2276              |
| 16 | BILD-Zeitung/BZ         | Germany                  | 2229              |
| 17 | The New York Times      | United States of America | 2134              |
| 18 | Guangzhou Daily         | China                    | 1886              |
| 19 | Nanfang City News       | China                    | 1863              |
| 20 | Rajasthan Patrika       | India                    | 1812              |

出典: World Press Trends 2016 (WAN-IFRA)

また、公益社団法人全国出版協会によれば、2016年の日本の書籍・雑誌の出版市場全体(1兆6,618億円)に占める電子出版市場の割合は11.5%であり、欧米に比べて電子書籍は日本では広く普及していない。日本は現在までのところ、他国に比べて、新聞も書籍・雑誌も紙媒体の割合が圧倒的に高い国であることは間違いない。

しかし将来はどのようなのでしょうか。二人の学生の考察結果を見ていく。



出典: 公益社団法人全国出版協会

### 紙媒体の新聞は将来消滅するかもしれない

日本新聞協会広告委員会「2015年全国メディア接触・評価調査」によると、新聞に対する様々な意識や態度に関する全ての項目につき、年齢が下がるほど紙媒体の新聞を肯定する割合が下がっており、特に50代以上と40代以下(項目によっては30代と40代)を境に新聞に関する意識・態度が変容している様子が窺える。A君は父親の知り合いである某スポーツ紙の記者に聞き取り調査を行ったが、聞き取り相手によると、新聞の発行部数は過去10年で半減し、新聞の主要な購読層である50代や60代の男性向けに健康や年金の特集記事を組むなどして発行部数の減少に歯止めをかける努力をしているが効果はないという。新聞の将来については、「紙の部数や影響力は、この先5年で大きく低下し、10年後には一般紙、スポーツ紙、夕刊紙の発行部数は半減し、統廃合もあると予想している」と回答している。その根拠として、インターネットが新聞から「速報性」のアドバンテージを奪い去ったこと、スマホの普及が予想を上回るスピードで50%を越え新聞や雑誌など紙媒体の主要な購買者である中高年層でさえも目を細めてスマホを凝視していることを挙げている。このような状況に対応して、2017年4月現在、新聞・通信各社はスマホのアプリ(41社)やPCのウェブ(81社)を始め、メール(55社)、動画(56社)、SNS(49社)といったデジタルサービスに力を入れている(一般社団法人日本新聞協会)。A君は調査結果をもとに、AR(拡張現実)技術は日々進歩しており、例えばスマートグラスを装着すれば新聞を目の前に映し出すこともできるため、将来、紙の新聞を目にすることが無く

なってしまう可能性は高いと考察し結論を得た。

| 新聞に関する意識・態度             |  | (%)             |                   |                   |                   |                   |                   |                   |                  |  |  |
|-------------------------|--|-----------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|------------------|--|--|
|                         |  | 全体<br>(n=1,000) | 15-19歳<br>(n=200) | 20-29歳<br>(n=200) | 30-39歳<br>(n=200) | 40-49歳<br>(n=200) | 50-59歳<br>(n=200) | 60-69歳<br>(n=200) | 70歳以上<br>(n=200) |  |  |
| 新聞や雑誌の廃止は早急に進めよう        |  | 79.8            | 85.1              | 88.9              | 71.8              | 79.8              | 82.9              | 86.6              | 84.9             |  |  |
| 新聞を読んだ、読むのを止めた          |  | 79.5            | 85.8              | 91.2              | 66.9              | 74.2              | 80.9              | 88.8              | 87.5             |  |  |
| 新聞から知ることはいらない           |  | 71.8            | 61.9              | 62.8              | 66.8              | 71.1              | 72.2              | 77.4              | 81.3             |  |  |
| 子どもには新聞を読ませるべきだと思わない    |  | 71.8            | 61.8              | 65.9              | 64.3              | 72.7              | 76.1              | 80.9              | 80.9             |  |  |
| 新聞は、世論の形成に重要な役割があると思う   |  | 71.3            | 67.1              | 67.3              | 68.9              | 71.5              | 72.3              | 81.1              | 81.6             |  |  |
| 新聞を読んだ、いらないものかと思うことがある  |  | 68.2            | 66.3              | 62.9              | 68.9              | 66.9              | 79.9              | 79.9              | 77.6             |  |  |
| 読みにくくなった。新聞はだめだ         |  | 61.6            | 63.7              | 63.2              | 68.6              | 67.3              | 68.3              | 75.4              | 76.9             |  |  |
| 読まなくていいページがある           |  | 68.6            | 61.3              | 58.9              | 63.2              | 66.4              | 66.6              | 73.9              | 79.1             |  |  |
| 新聞を読んだと分かっていない          |  | 68.3            | 65.9              | 57.7              | 55.3              | 65.4              | 67.3              | 78.4              | 88.9             |  |  |
| 新聞に載っていることが世の中の実情と違う    |  | 67.6            | 61.5              | 65.9              | 66.9              | 65.4              | 69.4              | 65.2              | 67.3             |  |  |
| 新聞を読んだ、いらないものかと思うことがある  |  | 66.1            | 61.4              | 58.3              | 64.7              | 66.2              | 62.7              | 69.1              | 67.3             |  |  |
| テレビなどで知ったニュースも、新聞で読むと違う |  | 63.2            | 56.4              | 59.1              | 55.2              | 64.8              | 65.9              | 63.2              | 67.3             |  |  |
| 新聞は自分にとって必要な情報だ         |  | 48.9            | 51.5              | 52.6              | 59.4              | 64.6              | 55.9              | 66.6              | 74.4             |  |  |
| 読むのが面倒くさい、読むのを止めた       |  | 48.7            | 56.6              | 58.6              | 51.7              | 59.6              | 59.1              | 58.7              | 61.2             |  |  |
| 新しい情報を知りたいが、読むのは面倒      |  | 46.1            | 58.3              | 55.4              | 51.9              | 56.4              | 51.1              | 63.4              | 74.7             |  |  |
| 新聞がもっと面白くならないと読まない      |  | 45.7            | 51.5              | 55.9              | 57.4              | 58.9              | 46.5              | 61.7              | 58.9             |  |  |
| 楽しみにしている記事・コラムがある       |  | 48.4            | 51.5              | 51.3              | 51.5              | 52.4              | 48.3              | 58.9              | 61.2             |  |  |
| まだ読んで、一度や二度は読む          |  | 48.4            | 51.7              | 51.3              | 54.1              | 55.4              | 47.9              | 57.4              | 61.5             |  |  |
| 新聞記事を読んだ、面白くないことがある     |  | 35.1            | 32.9              | 37.1              | 35.5              | 32.3              | 37.3              | 42.7              | 46.2             |  |  |
| 読むのが面倒くさい、読むのを止めた       |  | 29.9            | 36.2              | 33.1              | 33.9              | 29.3              | 31.7              | 46.5              | 42.7             |  |  |
| どんな記事でも読み終わるまで読むのを止めた   |  | 15.1            | 18.5              | 14.5              | 13.2              | 16.4              | 18.4              | 17.9              | 20.6             |  |  |

出典：一般社団法人日本新聞協会

## 紙書籍には歴史的・文化的価値がある

B君は電子書籍の普及は望ましいと考えていた。なぜなら、①紙の消費がなくなることにより森林伐採が減り地球の環境保全に寄与する、②絶版が無くなるため需要の大小に関わらず現在の世代のみならず将来の世代の多様な要求に応じることが可能となる、③書店や運送などの中間マージンがなくなるためより安価に書籍を入手できる、という正の外部効果があるからだという。

日本では1995年のWindows95の発売によるインターネット普及を受けて同年11月に日本初の電子書籍販売サイト「電子書店パピレス」が開設されたが、米国のアップル社が2008年に発売したiPhone及び2010年のiPadが日本でも急速に普及しスマホやタブレットで容易に電子書籍が読めるようになった。このため、2010年に出版社21社によって「日本電子書籍出版社協会」が設立され、総務省、文部科学省及び経済産業省の3省により「デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会」が開催されるなど電子書籍の普及・発展への環境整備が始まったことから、同年は日本の「電子書籍元年」といわれている（公正取引委員会競争政策研究センター）。

一方、2007年に米国のアマゾン社が発売した電子書籍専用端末機Kindleは世界中で急速に普及し、2010年頃には累計販売台数が150万台に達したにも関わらず、日本では5年後の2012年によくアマゾンジャパン

から発売されることとなった。5年も遅れて発売されることとなったのは、日本では出版社が米国のような著作権隣接権を持たないため、電子書籍化に当たり著者と個別交渉せざるをえず、このことが書籍の品揃えの障害となっていたためといわれている。また、アマゾンジャパンは契約上の理由などから出版社の意向を無視して電子書籍の価格を大幅に値下げできないことや、日本は米国と比べると国民1人当たり書店数が30倍、書店1店舗あたりの面積では60分の1となっており書店で購入したほうが早い場合が多いことも、欧米に比べて電子書籍が日本では広く普及しない要因と考えられている（植村八潮「電子書籍がもたらす出版・図書館・著作権の変化」）。

B君はインターネットによるアンケート調査を実施したが、調査結果から、電子書籍を読む際iPhoneやスマホが多く利用され、また、漫画や小説といった娯楽を得るための書籍が多く読まれていることが分かった（全国出版協会の推定販売金額と整合している）。iPhoneやスマホの利用が多いのは、携帯電話を主体とする複合情報機器として普及率が高いこと、また漫画や小説がよく読まれているのは、無料で読める漫画・小説を配信しているアプリケーションがあることも一因ではないかとB君は考察した。

一方、紙書籍を利用する理由を尋ねた結果から、紙書籍に対して知識や娯楽を得るという書籍本来の目的以外に「モノ」として保有すること自体に様々な価値を見出している回答者が多くいることが分かった。紙書籍には書籍本来の「読むこと」という価値に加えて存在する「モノ」としての歴史的・文化的価値がある。したがって、今後、電子書籍が更に普及していったとしても紙書籍が無くなることはないというのがB君の論文の結論となった。

## おわりに

B君の結論は私にとっても大変望ましく、かつ好ましいものであった。自宅の本棚にある本の背表紙を眺めると、それぞれの本が自分史の中で有機的に結びついていく。面白かった本、生きていく上で影響を受けた本など、手元に置いておきたい本があることは幸せである。

# 『人生を変える言葉の魅力とは!?!』

外国語学部 准教授 吉村 征洋

## はじめに

「読書」とは何か。このように尋ねられて皆さんはどう答えるだろうか。読書が好きな人は、人生に欠かせないもの、と答えるかもしれないし、読書が嫌いな人にとっては、読書は苦痛だ、と答えるかもしれない。読書に対する答えは千差万別であるが、一般的には読書をする事は良いことだと考えられている。読書することによって色々な新しい知識を得ることができるし、自分では到底思いつきもしないような偉人達の思想などに触れることもできる。

では私にとって読書とは何かを考えてみると、答えは「人生を変えたもの」である。読書が人生を変えた、と書くの大げさに感じるかもしれないが、実際私にとってある1冊の本との出会いが人生の大きなターニングポイントになった。本稿では、私の人生を変えた本の紹介をし、読書することによって本の「ことば」に触れる魅力について考察する。

## 人生を変えた本

私の人生を変えた本は、イギリスの劇作家ウィリアム・シェイクスピアの『ヴェニスの商人』である。高校3年生まで読書とは無縁の私であったが、大学では英語を学びたいと思っていたことから、文学部英文学科への進学を決めていた。文学部では数多くの本を読むことが求められるため、大学の授業に少しでもついていけるように、高校3年生の春休みに読書したのが『ヴェニスの商人』であった。なぜ『ヴェニスの商人』を読もうと思ったのかは記憶が定かではないが(もう数十年以上も前のことなので…)、おそらく高校生の私にとって「英文学といえば、シェイクスピア!」との稚拙な考えだったかと推測する。

当時、それまでほとんど読書経験が無かった私が、いきなりシェイクスピア作品を読もうとしたことは今から考えると無知蒙昧のように思えるが、実際に『ヴェニスの商人』を読み始めてみると、圧倒的な語彙数と「ことば」の魅力に衝撃を受けた。もちろん当時はシェイクスピア作品を原文で読解できるほどの英語力がなかったので、小田島雄志訳による日本語で『ヴェニスの商人』(写真を参

照のこと)を通読した。『ヴェニスの商人』を読み終えた後は、何ともいえない高揚感にしばらく浸ったことを今でも鮮明に覚えている。そして『ヴェニスの商人』を読む前の自分と読解後の自分では、全く違う自分になった感覚があった。異世界に触れることで、まるで「人生」について何かを悟ったかのようなのであった。

この時に『ヴェニスの商人』を読んだことがきっかけで、もっとシェイクスピアという劇作家について知りたいと思うようになり、大学院に進学して研究者の道を歩む決意をした。高校3年生のときに『ヴェニスの商人』を読書していなければ、おそらく大学を卒業して一般企業に就職していたことであろう。1冊の本を読書することによって、私の人生は大きく変わった。では次に私の人生を変えたシェイクスピア作品が持つ「ことば」の魅力とはどのようなものなのかを紹介したい。

## 「ことば」の魅力

シェイクスピア作品の魅力は何といっても語彙数が豊富であることではなかろうか。『ロミオとジュリエット』において、ロミオはジュリエットのことをただ「美しい!」と表現するのではなく、次のようにジュリエットの美しさについて言及している。

But soft! What light through yonder window breaks?  
It is the east, and Juliet is the sun.  
Arise, fair sun, and kill the envious moon, (2.2.2-4)  
だが待て! あの窓から漏れている光は何だ?  
向こうは東、とすると、ジュリエットは太陽。  
昇れ、美しい太陽よ、嫉妬深い月を消してしまえ。

この場面は月が輝く夜の場面だが、バルコニーに現れたジュリエットを見て、ロミオがジュリエットの美しさや輝きは夜という情景を消し去る太陽のような存在だと思っていることが理解できる。一人の女性を単純に「美しい」と表現するのではなく、このような修辭的表現を用いて女性美を表象できるのは、シェイクスピア作品の「ことば」の魅力といえよう。

シェイクスピアのことばの魅力に加えて、もう一つ紹介したいのがシェイクスピア作品を味読するための「技法」である。数多くの技法の中で、『ハムレット』の冒頭場面を例に挙げながら、ここではリズムと韻律について説明する。

Ber. **Who's** there?

誰だ。

Fran. Nay, **answer me. Stand and unfold yourself.**

お前こそ誰だ。立ち止まって名を名乗れ。

Ber. Long **live the King!**

国王万歳!

Fran. **Bernardo?**

バーナードか。

Ber. **He.**

そうだ。

Fran. You **come** most **carefully** upon your **hour.**

時間どおりに来てくれたな。

Ber. 'Tis **now** struck **twelve**. Get **thee** to **bed**, **Francisco.**

今12時になったところだ。もう休んでくれ、  
フランシスコ。

Fran. For **this relief** much **thanks**. 'Tis **bitter cold**,  
And **I am sick at heart.**

休めるのはありがたい。ひどい寒さで気が  
滅入ってしまうよ。

Ber. Have **you** had **quiet guard?**

何事も無かったか。

Fran. **Not a mouse stirring.** (1.1. 1-11)

ねずみ一匹出なかったよ。

この『ハムレット』の冒頭場面には、亡霊が現れるかもしれないという緊張感や不安感を醸し出すための演劇的技法が散りばめられている。例えば、1～5行目までの台詞は散文という話し言葉で書かれている。散文は突発的に発せられた台詞であるため、亡霊に恐れ戦く2人の緊迫した雰囲気が散文によって描かれていることがわかる。6行目以降では韻文(書き言葉)に変わっている。弱強5歩格(弱い音、強い音を1行の間に5回繰り返す技法。太字部分が強く読まれる音)の韻文に変化したことにより、定まったリズムに乗って朗々と台詞が述べられるので、2人の雰囲気に落ち着きが出てきたことが理

解できる。

また7行目が、弱強5歩格+「弱」co(Francisco)で終わっていることも見逃せない。韻文において「弱」音で終わるのを女性韻と呼び、話者の不安や不確かさを表現する。フランシスコと見張りを交代すべく登場したバーナードは、亡霊の存在に怯えており、フランシスコに帰ってほしくないという心理が暗示されている。さらに9行目(And I am sick at heart)の最後に沈黙のポーズ(休止符)があることで、二人が緊張で息をのんでいる様子がひしひしと伝わる仕掛けが施されている。

このようなシェイクスピアの巧みな技法と「ことば」のハーモニーは、英語による原文を読解することでしか味わえないので、日本語訳と照らし合わせながら原文を読解することをぜひともお勧めしたい。

### 終わりに

最後に、『ヴェニス商人』で「光るものが必ずしも金ならず(All that glitters is not gold)」ということばがある。一見華やかなものに人間は目を奪われがちだが、実は虚栄に過ぎないことがあるという教訓は数多くの文学作品で描かれている。読書を通してこうした教訓を学ぶことで、もしかしたら今後あなたの人生を変えることがあるかもしれない。



「ヴェニス商人」ウィリアム・シェイクスピア(著)  
小田島 雄志(訳) 白水社(1983)



## 2018年度 図書館学生サポーター活動



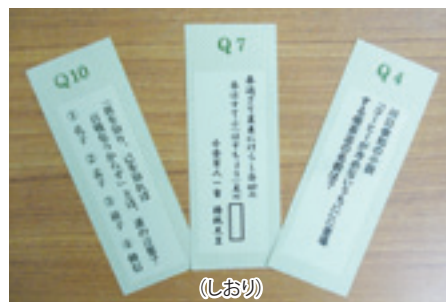
図書館では、本や読書が好きな学生諸君が集まり、「図書館学生サポーター」として活動をしています。主な活動は、知的書評合戦「ビブリオバトル」などのイベント開催、本の「しおり」の作成や配付などです。また、テーマを決めて本を持ち寄り語りあう「マイ・フェイバリット・ブックス」も開いています。日ごろは物静かな彼らですが、実は図書館員も顔負けの読書家で博学！今回はそんなサポーターからの情報や寄稿を中心に構成しました。

### ●全国大学ビブリオバトル

|                 | 日程              | 時間              | 場所                    | 発表者         | 参加者数 | 備考                                      |
|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------------|-------------|------|-----------------------------------------|
| 予選会             | 11月1日<br>(木)    | 16:40~<br>18:00 | 摂大図書館<br>ラーニングcommons | 5名          | 22名  | 全国大学ビブリオバトル<br>2018予選会                  |
| 関西Eブロック<br>地区決戦 | 11月23日<br>(金・祝) | 14:00~<br>15:00 | 大阪大学<br>豊中キャンパス       | 関西の<br>大学4名 | 約20名 | 全国大学ビブリオバトル2018地区決戦<br>(本学バトラー僅しくも2位敗退) |

### ●マイ・フェイバリット・ブックス

|     | 日程           | 時間              | 場所                    | 発表者 | 参加者数 | 備考        |
|-----|--------------|-----------------|-----------------------|-----|------|-----------|
| 第1回 | 4月15日<br>(木) | 17:00~<br>18:10 | 摂大図書館<br>ラーニングcommons | 4名  | 8名   | テーマは「マンガ」 |



(しおり)

## 「全国大学ビブリオバトル2018」に出場して 法学部1年 小原 悠暉

私がビブリオバトルと出会ったのは摂南大学に入学して、「図書館学生サポーター」に所属してからでした。それまではビブリオバトルの存在を全く知りませんでした。今回のビブリオバトルに参加したきっかけは「図書館学生サポーター」の活動の一環でした。私は中学生の頃から本を読むのは大好きでしたが、人前で話すことや自分の好きな本のことを誰かに薦めることがあまり得意ではありませんでした。だから、最初はあまり乗り気ではありませんでした。しかし、ビブリオバトルではプレゼンテーションの上手さではなく興味が湧いた本を選ぶというコンセプトを知った時に、もしかしら説明が下手な自分でも紹介した本に皆が興味を持つかもしれない、そして、これを機に自分の苦手な、人前に出るということを克服しようと思い、参加させていただきました。地区予選で自分の紹介した本がチャンプ本に選ばれた時、私は驚きを隠せ

ませんでした。初参加の自分が選ばれたことは勿論、自分の好きな本に興味を持った人がたくさんいてくれたことを嬉しく思いました。そして、これがビブリオバトルの醍醐味だと気がきました。地区決戦に挑む私のために「図書館学生サポーター」の先輩方や図書館の職員の方などが、私のプレゼンテーションのリハーサルを見てくださり改善点を教えてもらいました。ビブリオバトルは一人でするものではなく多くの人に支えられて出来るものと実感しました。地区決戦は残念ながら2位でしたが、このような貴重な時間を過ごせたことを大変感謝しています。



\*紹介した本……「ゾンビバイバルガイド」マックス・ブルックス(著)エンターブレインKADOKAWA・2013

## 図書館学生サポーターが薦めるこの1冊

～4年生から後輩諸君へ～

### 「カラフル」森絵都(著)

文藝春秋(文春文庫 2007)

人間とは美点と汚点を併せ持った生き物である。本書ではこの二つを垣間見ることが出来る。1度死んだはずの魂が、自殺を図った少年「真」の体に入り込んだ。この魂は過去に罪を犯しており、その罪がどんなものだったか認識するため、もう一度現世での生活の機会を与えられたのだ。その真の体で体験した様々な出来事に対する思いが、魂の視点で述べられていく。

一見厳しさや冷淡ささを感じる人々だが、本当は温もりや優しさを持っている。そんな人々の様子が胸がすく思いになれる作品である。気分が晴れない時にお薦めしたい1冊だ。



法学部4年  
小島 靖史

### 「直観力」羽生善治(著)

PHP研究所(PHP新書 2012)

この本の著者が羽生さんということで将棋だけの本だと思う方もいらっしゃると思います。実際に読んでみると将棋という例を用いながら、独創的な発想や、集中力の鍛え方が書かれています。好きなことをするのも良いですが、様々なことをまず体験してみることは大切だと思います。

今すぐ使えるモノより、一見無駄と思うモノの方が、時期が過ぎてみると案外役に立っていることのほうが多いと思います。

ぜひ迷いがある人やアイデアに悩んでいる人に読んでもらいたいです。



外国語学部4年  
橋本 直樹

### 「ミリオンセラーガール」里見蘭(著)

中央公論社(中公文庫 2015)

この本は主人公である正岡沙智がファッション誌の編集に憧れて出版社に転職する話です。ミリオンセラーを出すことの難しさや、どんな本であっても、皆さんに読まれることなく捨てられてしまうものもあることが紹介されています。本自体は比較的読みやすいストーリーになっています。

出版業界の仕組みが少しばかり解り、この本を最後まで読み終えたら何気なく本屋さんに立ち寄ってみたいくなります。



外国語学部4年  
橋本 直樹

# 図 書 館 利 用 統 計

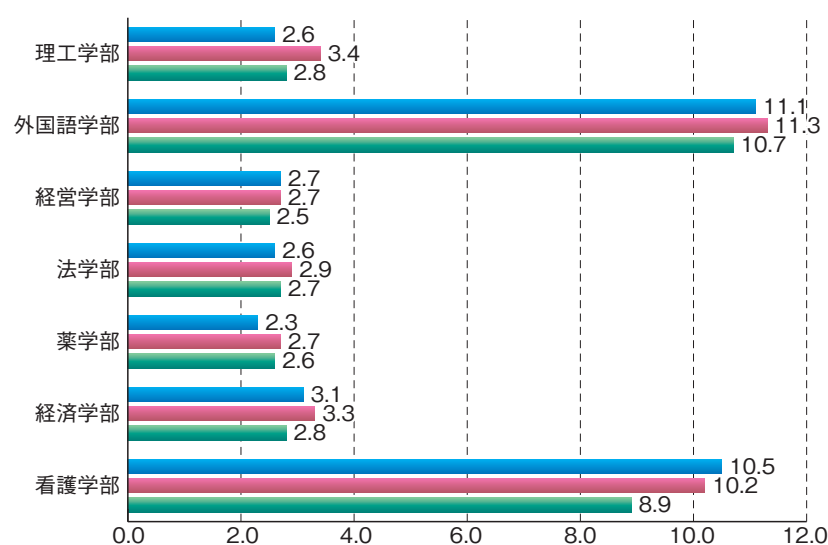
図書館ではより良い図書館運営のために利用状況の調査、アンケートの実施などを行っています。  
ここでは、2018年度(1月末まで)の利用状況と、学部別貸出冊数等について報告します。

## 図書館利用状況(2018年度[1月末まで] ※2016・2017年度は年間参考)

| 区 分     |        | 本 館      | 分 館     | 計        |
|---------|--------|----------|---------|----------|
| 開 館 日 数 | 2018年度 | 214日     | 214日    | -        |
|         | 2017年度 | 279日     | 289日    | -        |
|         | 2016年度 | 281日     | 287日    | -        |
| 入 館 者 数 | 2018年度 | 197,301人 | 54,941人 | 252,242人 |
|         | 2017年度 | 235,929人 | 74,564人 | 310,493人 |
|         | 2016年度 | 236,642人 | 90,013人 | 326,655人 |
| 貸 出 者 数 | 2018年度 | 16,646人  | 4,669人  | 21,315人  |
|         | 2017年度 | 18,927人  | 5,141人  | 24,068人  |
|         | 2016年度 | 18,102人  | 5,154人  | 23,256人  |
| 貸 出 冊 数 | 2018年度 | 31,663冊  | 9,080冊  | 40,743冊  |
|         | 2017年度 | 34,695冊  | 10,023冊 | 44,718冊  |
|         | 2016年度 | 32,422冊  | 9,810冊  | 42,232冊  |

◎2018年度の入館者数は、例年のこの時期と比較するとほぼ横ばい傾向です。  
貸出者数と貸出冊数は、2017年度同様に増加傾向にあります。  
また、今年度は、地震や台風の影響により、臨時に休館した日がありました。

## 学部別1人当たり貸出冊数(2018年度[1月末まで] ※2016・2017年度は年間参考)



◎外国語学部・看護学部は、例年どおり貸出利用が多く、特に看護学部は年々増加傾向です。経営学部も、昨年度より増加を見込めます。  
理工学部と薬学部は、貸出利用が減少気味です。

## 貸出トップ10(2018年度[1月末まで])[本館]

| タイトル/著者/出版社                                 | 貸出回数 |
|---------------------------------------------|------|
| 星の子/今村夏子/朝日新聞出版                             | 15   |
| あるかしら書店/ヨシタケシンスケ/ポプラ社                       | 13   |
| AX(アックス)/伊坂幸太郎著/KADOKAWA                    | 12   |
| かがみの孤城/辻村深月/ポプラ社                            | 11   |
| スタンフォード式最高の睡眠/西野精治/サンマーク出版                  | 10   |
| 崩れる脳を抱きしめて/知念実希人/実業之日本社                     | 10   |
| 冬雷/遠田潤子/東京創元社                               | 10   |
| 魔力の胎動 = Laplace's movement/東野圭吾/KADOKAWA    | 10   |
| 人魚の眠る家/東野圭吾/幻冬舎                             | 10   |
| 訪日外国人観光ビジネス入門講座: 沸騰するインバウンド市場攻略ガイド/村山慶輔/翔泳社 | 10   |

◎第39回野間文芸新人賞受賞作が1位にランクイン。井坂幸太郎、東野圭吾ら人気作家をはじめ、文芸書がよく読まれる傾向があり、メディアで紹介された本も人気があります。



\*資格・就職・TOEIC関連本、参考書、リーディングラウンジの本は除く

# 枚方分館二ユー

枚方分館は、薬学と看護関連の専門図書を主に揃え、学生の教育・研究を支援する体制を整えています。

主な企画として、図書を学生の手にとってもらう企画『テーマ別特集展示』、さらに進んで、読書習慣を養う企画『読書ラリー YOMOCA (ヨモカ)』、情報検索システム講習会等の企画『利用説明会』、学生・教員に図書を選書していただく企画『選書フェア』を実施しています。

## テーマ別特集展示

学生が興味を示しそうな話題や定番のテーマについての図書の展示を実施しており、今年度は教員の要望を受けた特集展示も2件企画しました。

ひとつ目は、ベトナムへの海外研修募集に伴う特集展示(写真①)で、歴史・旅行・食・紀行等ベトナムに関する図書や留学や英語・ベトナム語に関する図書を展示しました。海外研修募集を予定する学生に好評で、海外研修募集の応募も多数集まりました。



写真①



写真②

ふたつ目は、薬用植物園の取り組みに関する特集展示(写真②)で植物園で造られたハーバリウム(植物標本)実物と、ハーバリウム・ドライフラワー等植物を利用した造り方の本を展示しました。学生からはハーバリウムの間い合わせが多く寄せられ、植物園の取り組みを学生へお知らせすることができました。

|    |            |        |     |     |                     |       |          |              |
|----|------------|--------|-----|-----|---------------------|-------|----------|--------------|
| 5月 | 6月         | 医療小説特集 | 9月  | 10月 | 薬学部海外研修 in ベトナム2018 | 12月   | 環境問題2018 |              |
| 7月 | 摂大文化大賞にむけて |        | 9月  | 10月 | LOVE植物～図書館×薬用植物園～   | 2月    | 表紙美術館    |              |
| 8月 | 選書フェア2018  |        | 11月 | 12月 | 1月                  | ノーベル賞 | 3月       | マイノリティーを考える② |

## 読書ラリーYOMOCA(ヨモカ) 枚方分館限定

この企画は図書館分館の利用促進の一環として、学生の読書習慣をつけてもらうためスタートしました。初回は2014年度で今年で5年目を迎えます。今年度は1月時点で85名の参加者が登録しています。

登録者にはポイントカード(写真①)を配付し、本を期限内に返却、本のブックレビュー(書評)作成、希望図書申請等でポイントを貯めることができます。30ポイントを貯めると学園オリジナルグッズ(写真②)と引き換えができます。



写真②



写真①

また、ブックレビュー(書評)を書くためには、理解力・思考力・表現力が必要です。実際に文章を書くことを通して様々な表現力を伸ばすことができるので、学生の皆さんにはブックレビュー作成のチャレンジをお勧めします。

## 利用説明会

専門分野のデータベース、電子ジャーナル、電子ブックなどのインターネットを経由してパソコンで利用するサービスを提供しています。図書館カウンターにおいて情報提供・利用指導・相談受付も実施していますが、学部の要望や必要に応じて利用説明会を実施します。演習形式の場合はパソコンを設置した情報処理演習室を利用します。

### 《 昨年の開催例 》

#### ①「医中誌Web」利用説明会

国内の看護、薬学系大学ではほぼ100%導入されている論文情報検索サービスで多機能な検索方法により目的の論文を高精度に絞り込むことが可能となっています。基本的な利用方法から有用なテクニックまでを演習形式で講習しました。

日 時：2018年5月7日

場 所：情報処理演習室

対 象：看護学部学生(3年生)



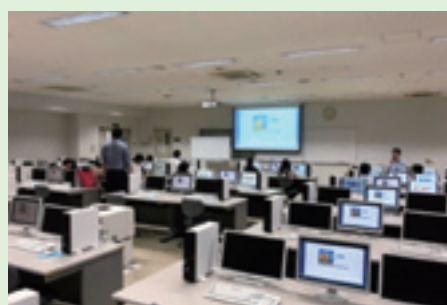
#### ②「Platon」利用説明会

教職員が図書を購入する場合、図書の起案システム「PLATON」を使用するため、新任の教職員並びに希望する教職員対象に講習会を実施しました。

日 時：2018年7月2日

場 所：情報処理演習室

対 象：薬学部・看護学部教職員



#### ③「信頼性の低い研究論文を掲載するインターネット専用の学術誌」説明会

薬学部の要望を受け、世界的に問題となっている学術誌(俗称:ハゲタカジャーナル)の説明とそれらを見極めるシステム等について専門業者による説明会を実施しました。

日 時：2018年10月12日

場 所：303教室

対 象：薬学部・看護学部教職員



## 選書フェア

7月2日から7月6日の5日間にかけて、医学・薬学・看護学を中心とした現物の専門図書約800冊を持ち込んで選書フェアを実施しました。枚方分館では年に1度実施しています。教員には学生に読ませたい図書を、学生は自分が勉強するために必要と思う図書を自発的に選ぶ機会を提供しています。

今回は目につきやすいカウンター前に選書用図書コーナーを設置し、購買部や食堂への新たな掲示などにより、前回より多数の教員や学生に参加していただきました。

購入希望図書は蔵書と重複がないことを確認したうえで購入し、新たな分館の蔵書となりました。

今回購入した図書は、協力いただいた教員・学生への報告を兼ねて8月の「特集展示」で公開しました。



# 2018年度 図書館利用者アンケート結果

図書館では、利用者の皆さんの図書館に対する認識や要望を確認するため、毎年度アンケートを実施しています。本年度は、2018年11月5日から11月22日までの間、メインカウンター付近にアンケート用紙を置き、同時に図書館ポータルサイトでWEB回答も可能にし、360人の利用者の方にご回答いただきました。皆さんのご協力に感謝し、こうした結果を今後の図書館運営に活かしたいと思います。

本稿では、前年度との比較も含め、主たる項目の集計結果について報告します。



## 1. 回答者数

360人(昨年度：325人) 内、ポータルサイト：62人(昨年度：73人)

【本館】 281人(昨年度：234人)

【分館】 79人(昨年度：91人)

## 2. アンケート集計

### (1) 図書館をどの程度利用していますか。

| 本館 | 選 択 肢     | 教職員 | 院・学部生 | 計(人) | 比率(%) | 前年度(%) |
|----|-----------|-----|-------|------|-------|--------|
|    | ほぼ毎日      | 0   | 39    | 39   | 14.0  | 15.4   |
|    | 週に2～3日程度  | 1   | 113   | 114  | 40.9  | 37.2   |
|    | 週に1日程度    | 1   | 70    | 71   | 25.4  | 26.1   |
|    | 月に2～3日程度  | 0   | 20    | 20   | 7.2   | 8.1    |
|    | 月に1日程度    | 0   | 7     | 7    | 2.5   | 4.7    |
|    | 試験期間のみ    | 0   | 13    | 13   | 4.7   | 1.3    |
|    | ほとんど利用しない | 0   | 14    | 14   | 5.0   | 6.4    |
|    | その他       | 0   | 1     | 1    | 0.3   | 0.9    |

●図書館の利用頻度で本館では、昨年に比べ「ほぼ毎日」の割合がやや減り、「週に2～3日程度」の割合が少し増加し、群を抜いて高い割合を示しています。また、「試験時期のみ」という割合が少し増加しており、特定の時期に図書館を利用している人が増えたようです。

| 分館 | 選 択 肢     | 教職員 | 院・学部生 | 計(人) | 比率(%) | 前年度(%) |
|----|-----------|-----|-------|------|-------|--------|
|    | ほぼ毎日      | 1   | 11    | 12   | 15.2  | 7.7    |
|    | 週に2～3日程度  | 0   | 15    | 15   | 19.0  | 29.7   |
|    | 週に1日程度    | 4   | 11    | 15   | 19.0  | 12.1   |
|    | 月に2～3日程度  | 0   | 10    | 10   | 12.7  | 11.0   |
|    | 月に1日程度    | 0   | 5     | 5    | 6.3   | 5.5    |
|    | 試験期間のみ    | 0   | 17    | 17   | 21.5  | 23.1   |
|    | ほとんど利用しない | 0   | 5     | 5    | 6.3   | 9.9    |
|    | その他       | 0   | 0     | 0    | 0.0   | 1.0    |

●一方、分館では昨年に比べ「ほぼ毎日」、「週に1日程度」、「月に2～3日程度」、「月に1日程度」の割合がそれぞれ少し増加し、「週に2～3日程度」の割合が減少しており、似たような数値を示しています。また、分館では「試験期間のみ」の割合が昨年に比べるとやや減少はしていますが、例年のように高いのが特徴的です。

### (2) 図書館資料のうち、次のどれを充実すべきだと思いますか。〈複数回答〉

【回答者数】本館：277人、分館：78人

| 項 目      | 本館回答数 | 比率(%) | 分館回答数 | 比率(%) |
|----------|-------|-------|-------|-------|
| 教養図書     | 88    | 30.3  | 31    | 38.3  |
| 専門図書     | 107   | 36.9  | 47    | 58.0  |
| 参考図書     | 53    | 18.3  | 19    | 23.5  |
| 視聴覚資料    | 20    | 6.9   | 5     | 6.2   |
| 国内学術雑誌   | 15    | 5.2   | 7     | 8.6   |
| 外国学術雑誌   | 12    | 4.1   | 5     | 6.2   |
| 一般雑誌     | 47    | 16.2  | 14    | 17.3  |
| 電子ジャーナル  | 13    | 4.5   | 7     | 8.6   |
| 電子ブック    | 22    | 7.6   | 10    | 12.3  |
| データベース   | 19    | 6.6   | 5     | 6.2   |
| 新聞       | 25    | 8.6   | 1     | 1.2   |
| シラバス掲載図書 | 17    | 5.9   | 7     | 8.6   |
| 資格取得関連図書 | 49    | 16.9  | 2     | 2.5   |
| 文庫本・新書本  | 86    | 29.7  | 9     | 11.1  |
| その他      | 3     | 1.0   | 0     | 0.0   |

●本館・分館ともに「専門図書」の充実を望む声が最も多い結果を示しており、昨年と同じ結果になっています。

●これに次いで本館では、昨年同様に「教養図書」、「文庫本・新書本」と続き、「参考図書」がひとつ順位を上げ、「資格取得関連本」の順になっています。

●分館では、「教養図書」、「参考図書」、「一般雑誌」と続き、昨年から徐々に回答数が増してきた「電子ブック」がこれに続いています。また、昨年4番目だった「文庫本・新書本」は6番目に順位を下げ、少し変化が見られました。

### (3) 図書館の環境についてどう思われますか。

良い:3点、普通:2点、悪い:1点として平均点を算出しました。

| 項 目                 | 本 館 | 前年度 | 分 館 | 前年度 |
|---------------------|-----|-----|-----|-----|
| 資料の配置               | 2.5 | 2.5 | 2.5 | 2.6 |
| 閲覧席                 | 2.6 | 2.4 | 2.5 | 2.8 |
| 案内表示                | 2.5 | 2.5 | 2.4 | 2.5 |
| 静寂性                 | 2.4 | 2.3 | 2.4 | 2.3 |
| 視聴覚設備               | 2.4 | 2.4 | 2.3 | 2.4 |
| パソコン設備              | 2.3 | 2.4 | 2.3 | 2.4 |
| ラーニング・commons(本館のみ) | 2.5 | 2.6 | —   | —   |
| 環境全般                | 2.5 | 2.5 | 2.5 | 2.6 |

- 環境全般では、本館・分館ともにほぼ昨年並みで平均的な評価となっています。
- 本館では、パソコン設備とラーニング・commonsで少し評価を下げましたが、これは利用者の多さによる騒音が原因と思われます。全般的にはほぼ良好な評価となっています。
- 分館では、概ね良好という評価ですが静寂性を除いてやや数値を下げていることから何らかの改善策が必要と感じています。静寂性の保持には、利用される皆さんのご理解とご協力が欠かせません。

### (4) 図書館の企画展示(特定のテーマの図書の展示)についてどう思いますか。

| 項 目          | 本館比率(%) | 分館比率(%) |
|--------------|---------|---------|
| 関心(興味)がある    | 32.6    | 37.2    |
| あまり関心(興味)はない | 49.3    | 41.0    |
| 企画展示は見たことがない | 18.1    | 21.8    |

- 本館・分館とも「関心(興味)がある」と答えた人は3割と少し程度で、「あまり関心(興味)はない」や「企画展示は見たことがない」と答えた人の割合が多く、少し残念な結果です。図書館では、企画や広報などを工夫する必要があると思っています。

### (5) 図書館イベント活動等についてご記入ください。

a:関心(興味)がある、b:あまり関心(興味)はない、c:知らない

| 項 目                 | 本館 比率(%) |      |      | 分館 比率(%) |      |      |
|---------------------|----------|------|------|----------|------|------|
|                     | a        | b    | c    | a        | b    | c    |
| 摂大文化大賞              | 12.0     | 54.5 | 33.5 | 3.9      | 42.9 | 53.2 |
| ビブリオバトル             | 12.8     | 64.1 | 23.1 | 4.1      | 39.2 | 56.8 |
| マイ・フェイバリット・ブックス     | 12.1     | 43.0 | 44.9 | 1.3      | 21.3 | 77.3 |
| 選書フェア               | 19.7     | 43.4 | 36.9 | 19.7     | 23.7 | 56.6 |
| 図書館学生サポーター活動        | 9.6      | 39.0 | 51.4 | 1.4      | 23.6 | 75.0 |
| 読書ラリー"YOMOCA"(枚方分館) | —        | —    | —    | 15.6     | 35.1 | 49.4 |

- 本館・分館とも全体的に図書館イベントに「あまり関心は無い」や「知らない」と答えた人の割合が多く、「選書フェア」以外では本館と分館で関心に偏りが見られます。

### (6) 図書館のお知らせやサービス内容を主に何で知りますか。〈複数回答〉

【回答者数】本館:269人、分館:77人

| 項 目               | 本館回答数 | 比率(%) | 分館回答数 | 比率(%) |
|-------------------|-------|-------|-------|-------|
| ホームページ            | 90    | 32.1  | 26    | 33.3  |
| Library Guide[冊子] | 6     | 2.1   | 1     | 1.3   |
| 館内のパンフレット         | 11    | 3.9   | 4     | 5.1   |
| 館内の掲示             | 86    | 30.7  | 37    | 47.4  |
| 館外の掲示             | 17    | 6.1   | 13    | 16.7  |
| 図書館スタッフ           | 2     | 0.7   | 8     | 10.3  |
| 友人                | 22    | 7.9   | 8     | 10.3  |
| その他               | 1     | 0.4   | 1     | 1.3   |

- 本館・分館共に、利用者の半数以上の人が「ホームページ」や「館内の掲示」でお知らせやサービスに関する情報の確認を行っていることがわかります。また、「友人」と答えた人たちは8~10%程度を示しており、昨年と同様な割合で推移しています。図書館利用に関する情報を利用者間で伝え合っているようです。

### (7) 次の目的で図書館を利用する場合、利用環境はどうですか。

良い:3点、普通:2点、悪い:1点として平均点を算出しました。

| 項 目     | 本館  | 前年度 | 分館  | 前年度 |
|---------|-----|-----|-----|-----|
| レポート作成  | 2.5 | 2.5 | 2.5 | 2.6 |
| 自学、自習   | 2.7 | 2.5 | 2.6 | 2.7 |
| グループ学習  | 2.5 | 2.4 | 1.7 | 2.0 |
| 図書閲覧    | 2.5 | 2.4 | 2.6 | 2.6 |
| 雑誌・新聞閲覧 | 2.4 | 2.4 | 2.5 | 2.4 |
| 視聴覚資料鑑賞 | 2.4 | 2.3 | 2.2 | 2.4 |

- 本館では、「自学、自習」に関して高評価を得ており、全体でも良好な評価を維持しています。
- 分館では、概ね良好な評価を得てはいますが、「グループ学習」と「視聴覚資料鑑賞」については幾分評価を下げています。
- 図書館の利用環境については、少しでも改善できるように努めてまいります。併せて利用者の皆さんのご協力もお願いします。

### (8) 図書館スタッフの対応についてどう思われますか。

|     | 良い(%) | 普通(%) | 悪い(%) |
|-----|-------|-------|-------|
| 本 館 | 74.8  | 23.0  | 2.2   |
| 分 館 | 63.6  | 29.9  | 6.5   |

- 本館・分館とも「良い」と「普通」に9割以上の人が回答しており、概ね良好な評価と言えます。今後も引き続き図書館サービスの向上に努めてまいります。

先生方に「学生時代に読んで欲しい本」をテーマに  
推薦図書を紹介していただきました。

## 『大阪まち歩き』

(創元社)

栗本智代[著] 2013年

地元文化に精通したカリスマ案内人の眼を通して大阪のまちを見直してみたら、普段は気づかずに通り過ぎていた町々に、数々の魅力的な空間が見えてくる。例えば、落語家さんを案内人に「上方芸能の舞台を歩く」の章では、信仰のまち上町台地が紹介される。落語の舞台となる一心寺、安井天神、四天王寺、高津神社など、嘶の世界が展開される。その本を読んで現地に立つてみると、歴史的町並みの向うには超高層の阿倍野ハルカスが立ち、歴史織りなす大阪の街の過去と現代を同時に見ることができる。まち歩きの楽しさを教えてくれる一冊である。

理工学部 教授 平田 陽子



## 『ことばと国家』

(岩波書店)

田中克彦[著] 岩波新書 1981年

私たちは、どこで生まれ、どこで育とうが、言葉とも国家とも無縁でいることはできません。本書は、ある言葉が権威を持ち、またある言葉が差別される、その諸相を分かりやすく解き明かしてくれます。「日本に生まれた日本人だから日本語を使う」と当たり前のように思っている方に読んでほしいです。1981年の発行なので、今日から見れば古い議論も含まれるでしょうが、私たちが漠然と抱いている言葉のイメージを揺さぶってくれるでしょう。同じ著者の『エスペラント』『ノモンハン戦争』(いずれも岩波新書)もあわせてお勧めです。

外国語学部 教授 橋本 正俊

『永遠平和のために／  
啓蒙とは何か 他3編』

(光文社)

イマヌエル・カント[著] 中山元[訳] 2006年

言わずと知れた哲学の古典(翻訳も複数ある)ではあるが、私が学部生の頃に読んで最も励まされた一冊なので、あえて学生諸君に紹介する。著者のカントは18世紀ドイツの哲学者。本書には、表題作を含め政治や歴史に関する彼の論考が収められているが、特に「啓蒙とは何か」の中で彼は、「自ら招いた未成年状態から抜け出る」ために「自らの悟性[ここでは広く思考能力のこと]を使う勇気を持って」と私たちに鼓舞してくれる。学生に伝えたいメッセージの一つだ。

外国語学部 講師 小山 裕樹



## 『社会疫学』(上・下)

(大修館書店)

高尾総司、藤原武男[著/編] 2017年

「社会疫学」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。たとえば、日本人の中でどんな病気がどのような人に広がっているのか、その広がりや病気の発症はどのような要因と関連するのか、こうしたことを研究する学問を「疫学」といいます。従来、疫学では病気の広がりや発症の要因として、遺伝や生活習慣など、私たち個人それぞれがもつ特性に注目してきました。しかし、研究が進むにつれ、病気やその広がり、そして健康は、個人の特性や行動だけでなく、地域社会のあり方にも大きく影響されることがわかってきました。本書では、教育や収入、差別、所得、労働、ソーシャルネットワーク、ソーシャルキャピタル、感情などの社会要因が病気や健康に影響を与えるについて、学問的エビデンスを示しながらいねいに解説されています。社会のあり方が人の健康に影響を及ぼすなら、私たちはだれ一人として社会のあり方に無関心ではいられないはずです。

看護学部 教授 小堀 栄子

『裸でも生きる  
25歳女性起業家の号泣戦記』

(講談社)

山口絵里子[著] 2015年

小学校の時に壮絶ないじめ・不登校を克服した経験から「ちょっとずつでも頑張れば、絶対に思ったとおりのことを実現できる」と確信し、その後、猛烈な努力の末に柔道で全日本選手権出場、偏差値40前半の工業高校から慶應義塾大学総合政策入学。その後米州開発銀行でのインターンの経験から現場から貧しい国の役に立ちたいという信念を持ち、アジアの最貧国バングラディシュで起業を23歳で決意。多くの困難や裏切りを乗り越えて現在アジアで32店舗を展開しているマザーハウス(株)の社長である山口絵里子氏の自叙伝である。この本を読んで多くの学生に「本当の努力とは?」「努力すれば夢は叶う」ことを知って頑張ってもらいたいと思います。

経済学部 准教授 名方 佳寿子



## サービスの紹介

図書館蔵書検索システムは、2018年3月にリニューアルしましたが、資料を探す際に皆さんが利用される検索機能の便利な使い方、および本学で利用できる電子ブック資料について簡単にご紹介します。

ご利用の皆さんにとって、「検索達人」を目指すことでより良い学習・研究の成果につなげられるよう図書館でも応援します。



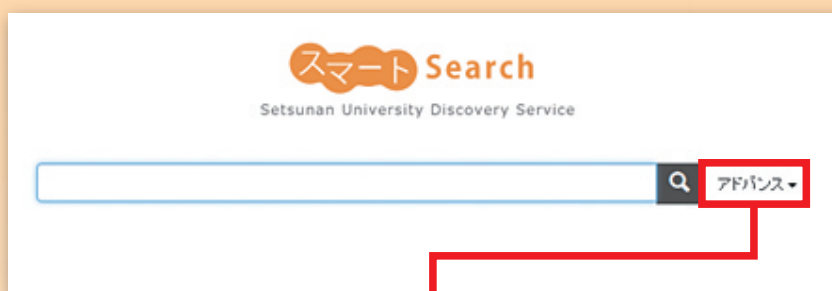
## Summon 「スマートSearch」



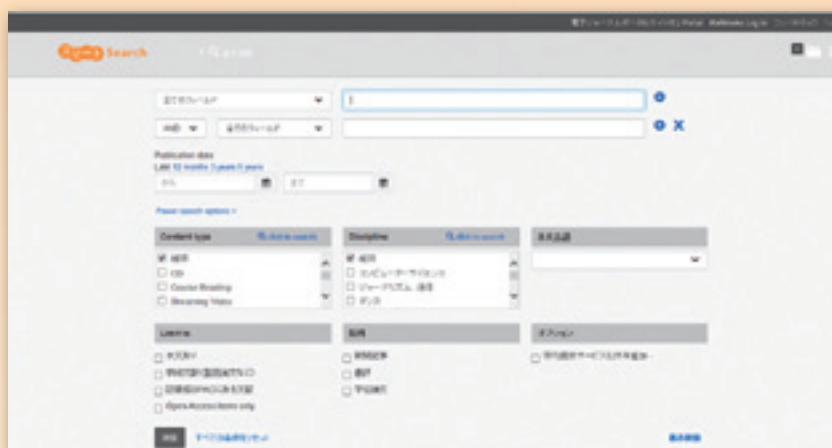
Summonは統合検索や次世代OPAC(図書館蔵書)を越える全く新しい検索サービスです。

Googleのようなシンプルなインターフェイスから図書館独自の広範囲で信頼性の高い情報へすばやくアクセスすることができます。

図書館の所蔵資料や契約データベース・電子ジャーナル、機関リポジトリ、オープンアクセス誌といった図書館で利用できるすべてのリソースのメタデータをあらかじめハーベスティングさせる手法でこれまでにない検索スピードを実現しました。



詳細検索画面へ



## Maruzen eBook Library

機関向け電子図書館/電子書籍配信サービスです。

研究・学習での利用に便利な検索・閲覧機能が充実、学術・研究機関のための学術情報に特化した電子書籍を提供しています。



# 2018年度「摂大文化大賞」入賞作品発表!!

図書館では毎年、学生諸君の文化的創作意欲を奨励するため「摂大文化大賞」を設け作品を募集し、優秀な作品を表彰しています。今年度も4部門にわたり13点の作品応募がありました。厳正な審査の結果、大賞には松葉理紗さんの絵画「味園ユニバース」が選ばれました。そのほか下記の4作品が受賞しました。表彰式は12月13日(木)図書館本館ラーニング・コモンズで行われ、受賞者には福島図書館長から表彰状と副賞が授与されました。

| 部 門                                                                                         | 賞      | 作 品 名         | 作 者                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------------|-----------------------|
|                                                                                             |        |               | 所属・学年・氏名              |
|  大賞(美術・工芸) |        | 味園ユニバース       | 理工学部住環境デザイン学科3年 松葉 理紗 |
| 美術・工芸                                                                                       | 部門優秀賞  | 狼 男           | 外国語学部3年 金本 哲生         |
| 写 真                                                                                         | 部門優秀賞  | 青い機体と白い波      | 外国語学部2年 雨宮 光希         |
|                                                                                             | 部門優秀賞  | 休 息           | 外国語学部3年 三宅 賢二         |
| 文 芸                                                                                         | 審査員特別賞 | 選ばなければ就職はできる! | 外国語学部4年 橋本 直樹         |



大賞[味園ユニバース]



美術・工芸 部門優秀賞  
【狼 男】



写真 部門優秀賞  
【青い機体と白い波】

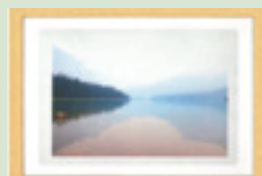


写真 部門優秀賞  
【休 息】



文芸 審査員特別賞  
【選ばなければ就職はできる!】



大賞受賞の記念撮影



表彰式後の記念撮影

<編集後記> 本誌「学而」が発刊100号を迎えました。1984年創刊時、摂南大学は工(現:理工)・国際言語文化(現:外国語)・経営情報(現:経営)・薬学部の4学部、図書館は同年4月法人中央図書館から「摂南大学図書館(本館)」、「同枚方分館」と独立分離しました。2020年4月開設予定の農学部が完成年度を迎えると学生数約1万人を有し8学部となります。図書館の規模や機能が変わっても、果たすべき役割は「知のメディアとしての機能」であることは変わりません。歴代の諸館長はじめ諸館員みなさまのみなみならぬ努力と工夫に対しここに感謝申し上げるとともに、これからも学生・教職員の方々に知のメディアとしてより魅力的な図書館づくりに励んでまいります。

Smart and Human  
摂南大学

「学而」摂南大学図書館報 No.100 2019.3 編集・発行 常翔学園 摂南大学 図書館  
本 館 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17-8 TEL.(072)839-9111  
分 館 〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町45-1 TEL.(072)866-3102  
URL:<http://www.setsunan.ac.jp>